

正服&ワッペン紹介



消防救助機動部隊
(ハイパーレスキュー)



特別救助隊



水難救助隊



山岳救助隊



上級予防技術



予防技術



ポンプ機関員



特別操作機関員



普通機関員



化学機動中隊



救急機動部隊



主任調査員

人事部人事課採用係

採用フリーダイヤル：0120-119-882（平日の午前8時30分から午後5時15分まで）

TEL：03-3212-2111（代表）

〒100-8119 東京都千代田区大手町1-3-5

東京消防庁ホームページ <https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp>

東京消防庁Twitter https://twitter.com/Tokyo_Fire_D

東京消防庁Facebook <https://www.facebook.com/TokyoFireDepartment/>



東京消防庁
TOKYO FIRE DEPARTMENT

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙を
リサイクルできます。
石油系溶剤を含まない
インキを使用しています。



合格者のご家族の皆さまへ

UNLIMITED
— 挑め、己の可能性を信じて —

東京消防庁
TOKYO FIRE DEPARTMENT





OUR
MISSION

消火



OUR
MISSION

救急



OUR
MISSION

救助



OUR
MISSION

防火・防災

UNLIMITED

— 挑め、己の可能性を信じて —

約1,400万人もの人々が暮らす世界有数の大都市「東京」。
多くの人々が暮らすだけでなく、首都としての機能が集約されるとともに、
ダイナミズムかつグローバルな経済活動が日夜途切れることなく行われている。
そのような大都市「東京」で生きる人々の大切な命を守るために、
それぞれの部門で最善の災害対策を打ち出し、速やかに実践する力を養わなければならない。
このミッションを果たすべく、あらゆる災害を想定した厳しい訓練に汗を流す。
私たちを突き動かすものは、「首都・東京を守る」という揺るぎない決意と
己の限界にチャレンジする強靱な意志にほかならない。
困難に直面しても、自分の可能性を信じて前に進む。
そんな仕事に対する一途な想いが、「無限」という可能性の扉を開く。

一人前の消防官になるまでの歩み | 初任教育の流れ

1年間

6ヵ月間

初任基礎教育課程

消防学校に入校し、
座学や実科の課業により、
消防官としての基礎を
身につけます。

6ヵ月間

初任実務教育課程

消防署に配属され、
災害現場での活動や
事務処理などの実務を通じて
教育を受けます。

4日間

初任総合教育課程

初任教育の仕上げとして、
問題解決能力の向上や
キャリア形成に関する教育など
総合的な教育を受けます。

※時期により期間が異なる場合があります。



OUR
MISSION

予防



OUR
MISSION

査察



OUR
MISSION

火災調査



OUR
MISSION

広報



ABOUT
FIRE
SCHOOL

消防学校

※写真は令和2年1月以前のものが含まれています。

消防官として採用されると、消防学校学生として消防学校に入校し、学生寮での生活をスタートします。

ここでは、消防官として求められる規律や使命感、そして知識、技術などを身につけるための初任教育を受けます。

授業紹介

消防業務の基礎を修得

座学

教室で行われる座学の授業では、消防活動や防火、防災に関する基礎的な知識の習得のほか、消防職員としての人格形成を目指した授業を行なっています。



PICK UP

● 倫理・服務 東京消防庁の職員倫理規範や守らなければならない事項など職員としての基本的な心得を学びます。	● 消防活動知識 消防業務の制度や概要、消火・救急・救助活動を効果的に行うために必要な活動基準や活動要領、基本原則を学びます。
● 防災 住宅防火対策や防災福祉対策、都民生活の安全対策、震災対策、自主防災組織への指導方法などを学びます。	● 消防機械・ポンプ 道路交通法や機関員制度、消防ポンプ、車両の安全運行、誘導要領など、消防車両の運用に関する基礎知識を身につけます。
● 査察 火災予防査察の制度や意義、査察対象物の種別、立入検査執行要領、立入検査結果通知書の交付要領などを学びます。	● 建築 建物の安全を確保するため、建築物の防火に関する規定や消防用設備等についての基礎知識を学び、審査要領などを身につけます。

実科

基本的な動作やトレーニング要領のほか、災害現場でポンプ隊員として活動するために必要な基礎的な知識・技術を身につけます。



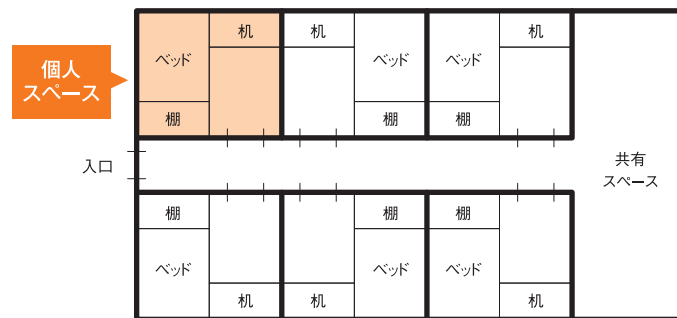
PICK UP

● 礼式 消防職員として必要な礼儀や節度、規律、品位を身につけるため、敬礼や申告、物品授受、行進などの要領を学びます。	● 体育 筋力・体力トレーニング、剣道、校外学習（登山）などを通じて、消防活動に必要な体力・気力を身につけます。
● 機器取扱訓練 ホースやロープ、空気呼吸器、破壊・救助器具など、消防活動で使用する機器の諸元、性能、構造、取扱要領を学びます。	● 消防活動訓練 ホース延長や注水要領のほか、防火衣着装から始まる一連の消防活動訓練を行い、ポンプ隊員として必要な知識・技術を身につけます。
● 救急活動訓練 救急活動において必要な処置ができるよう、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫心マッサージ、AEDによる除細動要領などを学びます。	● 実務研修 入校中に消防署で実務研修を行います。研修先の消防署で実際に業務を体験することで、業務について理解を深めます。

学生寮について

消防学校入校からの仲間たちと6ヵ月間の共同生活を行う学生寮を紹介します。

〔間取り例〕



個人スペース

1つの部屋をパーテーションで6～7室に分け、学生一人一人に個人スペースを確保しています。



共有スペース

冷蔵庫やアイロンなど、生活に必要なものが揃っています。



風呂場(男子寮)

シャワースペースの充実した大浴場です。実科訓練などでかいた汗を流し、疲れを癒します。



洗濯室

学生全員が自分で洗濯を行います。



売店

学校生活に欠かせない文房具や書籍から、日用品やお菓子、さらには東京消防庁オリジナルグッズまで品揃え豊富です。



食堂

一度に約600名が利用可能。昼食のメニューは2種類の日替わりから選べ、課業の合間の楽しみの一つになっています。

東京消防庁 Q & A

- Q1** 地元から出たことがないため、上京することが不安です。
全国で採用試験を行っているため、入庁者の出身地は様々です。初めて上京したという人もたくさんいます。「出身地域が同じ」というきっかけで仲良くなる同期生も多いです。
- Q3** 入庁前に準備しておいたほうが良いことがあれば教えてください。
厳しい訓練を行いますので、トレーニングはしっかり行ってください。ただし、無理をして怪我をしないように注意してください。治療中の怪我や病気があると入庁延期になる場合があります。
- Q5** メガネをかけていますが、コンタクトレンズに変える必要がありますか。
個人の判断になりますが、訓練ではメガネを使用できない場合がありますので、コンタクトレンズの方が実用的です。
- Q7** 入庁に際して必要な持ち物を教えてください。
内定通知に併せて送付する資料に記載します。衣類等の生活必需品以外のもの(パソコン等)は原則持ち込めません。
- Q9** 入寮中に家族や友人との連絡はとれますか。
緊急時の連絡体制を確保するため、携帯電話の持ち込みは可能です。課業終了後に限り使用することが可能です。

- Q2** 入庁時期を教えてください。
原則として翌年度の4月1日以降、採用候補者名簿の成績上位者から順次入庁となります。入庁の約2ヵ月前に発送する内定通知をお待ちください。欠員の状況により4月1日以前の場合もあります。
- Q4** 体力トレーニングに数値的な目安はありますか。
消防学校では懸垂が15回以上、1,500m走が5分30秒以内を目安としています。
- Q6** 入庁式に家族は参加できますか。
本人以外は参加できません。ただし、入庁から約5ヵ月後に行われる訓練の効果を確認する庁内行事はご家族の見学が可能です。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、見学できない場合があります。
- Q8** 入寮中でも週末の外出や外泊ができるとありますが、寮で過ごすことも可能ですか。
可能です。体育館やグラウンドでトレーニングを行ったり、自主訓練をしたりする学生もいます。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、週末の外出や外泊については制限される場合があります。
- Q10** 新型コロナウイルス感染症へはどのような対策をしていますか？
マスクの着用、手洗いがいの徹底に加え、三密を避けるために身体的距離の確保や複数教室を活用したりリモート授業の実施、換気の徹底、食事や入浴等でも時間指定をするなど、万全の対策を行っています。



ABOUT
FIRE
DEPARTMENT

消防署

消防学校卒業後は都内81カ所にある
いずれかの消防署に配属されます。

勤務体制

【交替制勤務】と【毎日勤務】の2つの勤務体制をとっています。

交替制勤務

ポンプ隊や救急隊、特別救助隊などの災害対応にあたる職員

勤務時間 8:30～翌8:40 | 消防署では、3週間で1サイクルとして、三交替制で勤務します。週の平均勤務時間は38時間45分です。



毎日勤務

主に予防業務などを担当する職員や本庁で勤務する職員

勤務時間 8:30～17:15 | 勤務時間は38時間45分で土・日曜日及び祝・祭日が休みの週休2日制です。



消防署で行う仕事

消防署へ配属後、多くの方はポンプ隊員として任命されると同時に、予防や防災などの各係員に任命されます。また、担当事務のほかにも、様々な業務を行います。



交 毎 災害活動

出場指令があると素早く出動します。消火、救助活動だけでなく、災害後には火災原因調査等も行います。



交 毎 火災原因調査

火災を消火したあとは、発生した原因などを調査します。



交 出場報告書作成

災害現場に出動したあとは、報告書を作成します。



交 通信受付勤務

通信室で部隊への出動指令を受信します。



交 毎 予防受付事務

提出される様々な申請書や届出書、申込書の受付を行います。



交 毎 来庁者対応

消防署に見学に来てくれる一般の方々の対応をします。



交 毎 立入検査

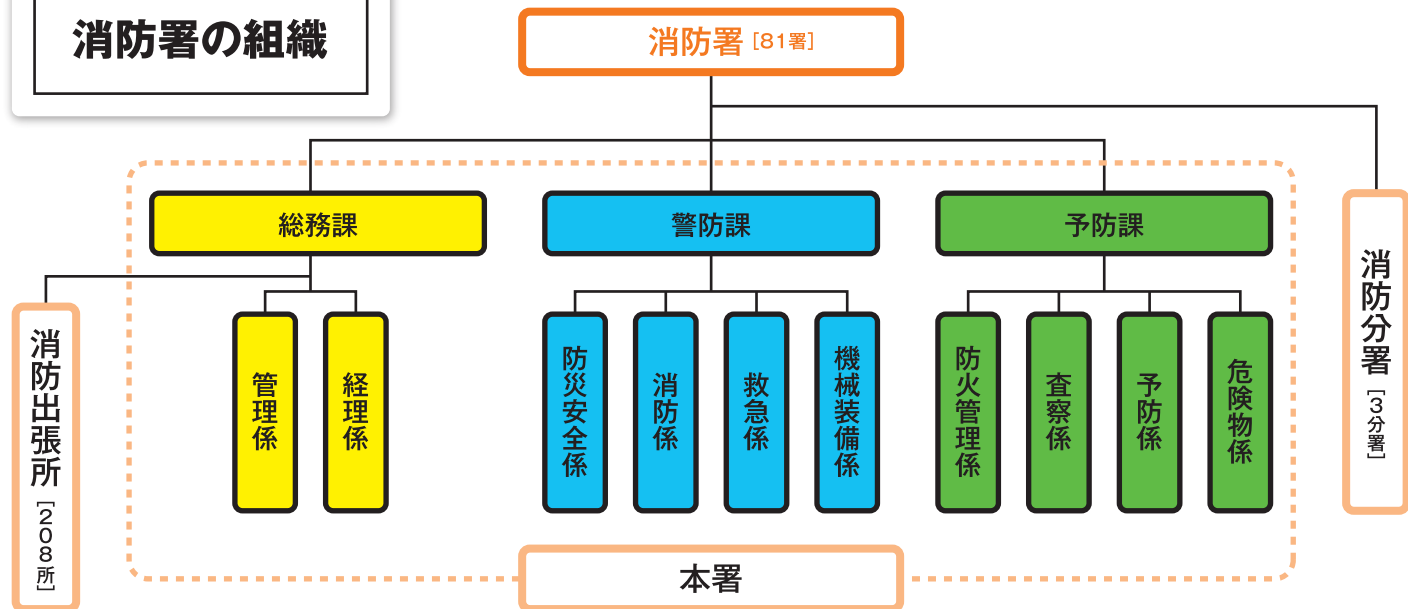
車両で出向して、建物が火災予防上問題がないか検査を行います。



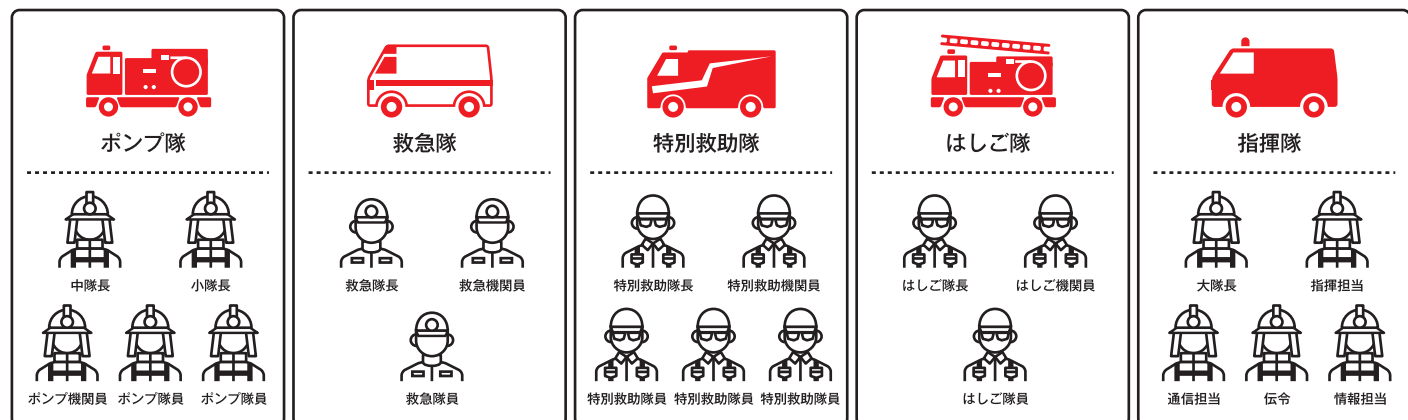
交 毎 防災訓練

町内会や自治会の防災訓練に出向して指導を行います。

消防署の組織



車両や隊員の編成例



研修制度でステップアップ

各職種に求められる専門知識や専門技術を、研修や技術認定試験を通じて習得することができます。東京消防庁では多くの研修制度があり、職員それぞれの意志でキャリアアップを目指しています。

技術認定試験や研修を受けた後になれる職種



救急隊員



はしご機関員



特別救助隊員



予防技術員

入庁後も採用試験受験で、採用区分をシフトアップ

入庁時の採用区分にかかわらず入庁後にシフトアップ(Ⅲ類→専門系、Ⅰ類、Ⅱ類へ)できます。自分の能力を証明し、その後の仕事にも活かれます。採用試験に準じた条件のもとに受験することができます。

働きながら大学で学ぶという選択肢

「学びたい」という向上心に応えるため、大学等委託研修のほかに、東京消防庁では大学で学ぶことを希望する(自費通学)職員をサポートする体制(勤務先や単身寮など)を整えています。